

白川静博士の解明した漢字の体系を、楽しく、分かりやすく体感

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所（白川研）では、故・白川静立命館名誉教授の研究成果をもとに活動の一つとして白川文字学に基づく教材制作、さらに一般向けの漢字学習講座を行っています。白川名誉教授は暗記ではなく理解をさせる系統立った漢字教育の必要性を強調し、その方法として漢字の形体学的研究を進められていました。白川研では、漢字の構造を一般の方にも理解していただこうと様々な取り組みを企画しています。

その中で最も人気を博しているのが「漢字探検隊」です。毎回一つのものをテーマとして、座学だけではなく、見学や体験を通して漢字の成り立ちや体系を学習する体験型の漢字講座です。漢字に関して大人顔負けの知識量を誇る子どもがいます。しかし、すし屋の湯呑みに書いてある「さかなへん」の漢字をすらすら読めても、どの魚かわからなかったり、「酒」の字の中にどうして「酉（とり）」が入っているのか知らなかったりするのでは、単に知識を詰め込んでいるだけです。漢字は、文字としてだけで存在しているわけではなく、それを生んだ自然・社会・文化があります。3500年の間、意味づけをほぼそのままに漢字を使用してきた人々の背景と漢字の体系を理解でき、それによって「成り立ちとつながり」で漢字の学習に役立つだけでなく、物事を分析したり関連付けたりする力を養うこともできるようになっています。

漢字のプロ・漢字教育士だからできる指導

「漢字探検隊」の指導にあたるのは、白川研が養成した※漢字指導のプロ・漢字教育士です。「漢字教育士」とは、漢字の成り立ちや学説を理解し漢字についての幅広い知識を「教える力」を身につけた方です。「漢字探検隊」も漢字の楽しさを知り、漢字の魅力を伝えることができる「漢字教育士」だからこそできるものです。



※「漢字教育士」「漢字探検隊」は、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の登録商標です。

※白川研は、立命館アカデミックセンター

にて「漢字教育士資格認定講座」を開講しており、全国で 500

名を超える漢字教育士が小・中・高校、書道教室以外にも、学童保育、放課後教室、老人ホームなどのカルチャー教室等に活躍の場を広げています。

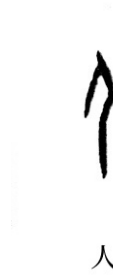
「漢字探検隊」開催例ーその1 「人体と漢字—漢字ジェスチャー大会」

小学校で学習する漢字 1006 字のうち、人に関する部分が含まれているものは 300 字以上あります。自分たちからできているのだから、漢字の成り立ちを体感してもらおうと、ジェスチャー大会を企画しました。

漢字の歴史を一通り説明した後、

「まず、皆さんにテストをします。この漢字を読んでください」

ホワイトボードに「人」と書きます。一
斉に「ひとー（京都弁なので、「ひ」に
アクセント）」の声があがります。



「『人』は何の形からできたのかな」

「ひとのかたちー」

「そうだね。じゃあ、人のどんなポーズからできたんだろう。立ってやってみよう」

ここまで、（ばかにするな）という感じで対応していた子どもたちが、意外な展開に驚きます。付き添いの大人も知りません。会場中で相談の声が響きます。そして、いろいろなポーズをとってくれました。

ここで「今から 3500 年前の文字は、こんなのでした」とスクリーンに「人」の甲骨文を映します。※

「横向きや！」歓声があがります。

「そう、人間は二本足で立ってるんやね」

その後皆で「人のポーズ」をしました。「これが基本のポーズやから、覚え
といてね」

この後、右向きの基本ポーズで「比（背比べをしているさま）」、左を向いて「従



比



从⇒従⇒従



北



化

（もとは従⇒从で、「前へならえ」をしている形）」、背中合わせで「北（もとは「せ、そむく（背）」の意味）」、一人が立って、一人が倒れて「化」など、ポーズをとりながら、「人」の系列の字を「体感」していきます。

「漢字ジェスチャー大会」がどんなものであるかが理解できたところで、「さあ、今度は自分たちで漢字を作ってみよう」とチームごとにお題の漢字と、その甲骨文から現代に至るまでの変遷を記したカードを与えて、「できないと、古代人にまけちゃうよ」と、自分たちでポーズを考え、他のチームに当てさせるゲームを行いました。子どもたちの苦心のポーズです。何の字かわかりますか。

■子どもたちの苦心のポーズ



「漢字探検隊」開催例ーその2 「動物園で漢字と出会う」



角



骨



爪

最初に動物園の獣医さんから、動物の標本を見せてもらい、それぞれの器官の機能について説明を受けました。それから古代文字を見せ、これらも象形文字であることを

を解説。「うわぁー、納得」という声が聞こえてきました。



園内では、いくつかのおりを巡りながら動物と漢字の解説を行いました。

ゾウのおりでは、「象」の字の「ク」のところは鼻、

「日」を横にした形は頭 と牙、「家」の下のようなところ

は脚と尻尾。ここでも「ほんまやぁ〜」と

の声が漏れますが、「象」の解説はここからが本題。

「ゾウは、中国にいないのに、どうして『象』っていう字があるんだろう？」

「う〜ん?!」子どもも大人も言葉を失います。

「漢字ができた 3500 年位前の中国には、象がいたんだ

よ。その時は今よりもずっと暖かくて、木もたくさん生えてて、ゾウだけやない、サイ（犀）もいたそうです。そしてクレーンや戦車のように使っていました。でも、気候が変わって、人間が木を切って植えなかったから、だんだんゾウが棲めない環境になってしまったんです」獣医さんも「今ではタイとの国境付近にいます」

子どもも大人も初めて聞く話に興味深く耳を傾けていました。



「漢字探検隊」は全国へ そしてどこでもできます

2007年3月から始まった「漢字探検隊」は、発祥地・京都では60回を迎え、全国では200回を超える開催を数えます。(2021年3月現在)

しかし、特別な施設にわざわざ出かける必要ありません。学校や教室でも充分行うことが可能です。ざっと見渡してみても「戸・門・冊・高・扁・衣・典・刀・筆・桶・掃・傘・生・世・木・水・缶・皿・骨・楽・鼓・糸・网」などの字のもとなるものを見つけることができます。学校や教室で「漢字探検隊」を開いてみて下さい。子どもはびっくり、大人も納得、指導者も学習者の思わぬ発見に感動することでしょう。

楽しかった!

来てよかった!

参加者 吉田浩平さん親子

漢字が好きな息子にせがまれて参加しましたが、自ら手をあげてゲームに参加する子どもたちを見ると本当に来てよかったと思えました。普段小学校の授業は参観日しか見られませんが、こういう講座なら子どもの学ぶ姿を間近で見られるので親としてもいい機会でした。



亮平くん

舜士くん



©2013年「京都漢字探検隊」に参加